

Going My Way

我が道を往く

Movie



監督・製作・原作:レオ・マッケリー
 出演:ビング・クロスビー、パリー・フィッツジェラルド他
 製作年:1944年
 製作国:アメリカ/モノクロ/126分
 (ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパンからDVDが発売中)

家族全員で楽しみ、良いストーリーとユーモアと音楽があり、何かを学ぶことができ、しかも、後味のよい映画をお探してでしょうか。

今回は、我が家で何度となく鑑賞した、家族みんなのお気に入りの映画、「我が道を往く」をご紹介します。前回に続き、これも1940年代のクラシックな作品ですが、まだまだ現在の私たちが観ても多く教えられることもあります。

主演は、日本でも有名な「ホワイト・クリスマス」でおなじみのビング・クロスビーです。アカデミー賞の作品賞、監督賞、主演男優賞、助演男

優賞、脚色賞など7部門を制した作品ではあるものの、正直に言って、速いペースで流れるストーリーの展開や映像に慣れた私たちは、物語のテンポがあまりに遅く、注意を引く特殊効果もないことに、もの足りなさを感じるかもしれません。しかし、それは映画に何を求めるかの問題です。当時は、ビジュアル効果よりは台本やメッセージに重点が置かれており、それこそが映画にとって大切なポイントでした。

ストーリー

若いオマリー神父(ビング・クロスビー)は、時代に取り残されたフィツギボン老神父(パリー・フィツジエラルド)の後任となることを期待されて、ニューヨーク市街の聖ドミニック教会に赴任する。教会は、まだ冬だというのに暖房もなく、借金のまた返済が5ヶ月遅れ、口の悪い婦人たちがしつけのされていない少年たちに悩んでいる。オマリー神父は気さくで、安易に人をさばれない。親しみ易いので、手に負えない少年たちにもすぐに受け入れられる。

神父は地域にとけ込み、家出した少女(ジン・ヘザー)の話聞き、教会の抵当権を持つヘインズ氏とも懇意になり、近所の少年たちにもっと健全な時間の過ごし方を教える。野球場に連れて行って子どもたちの信用を得、コーラスの楽しさを教える。今や有名になった「星にスイング」を、メトロポリタン・オペラハウスで彼らに歌わせ、教会の借金返済に成功する。家出少女に恋をした地主の息子のよい相談相手になる。オリジナル・ソング「我が道を往く」を歌って、

幼なじみのオペラ・シンガー(リーゼ・ステイブンス)の慈善の心をかき立てる。

オマリー神父は、先輩のフィツギボンにも気配りができる。教会の主任司祭としてすべてを取り仕切る権利はあるのに、あえてそうしない。気むずかしい老人と気さくな若者の織りなす物語がおかしい。クロスビーの歌うアイルランドの子守唄「トウーラ、ルーラ」が聴く者の郷愁を誘う。クライマックスでは、子守唄のBGMが流れる中、フィツギボン神父の高齢の母親がアイルランドから訪ねて来る。息子に会うのは45年ぶり。オマリー神父の招きだ。

我が家では、ビデオを観た後で、本編のテーマをみんなで話し合い、「クリスマスチャンの目指すべき模範が描かれている」という点で一致しました。不良少年たちを改めようとするオマリー神父の努力、貧しい者への愛情、老人への敬意、決して威張らないで、道理をわきまえていることなど、どれもが良い模範です。

最近の映画はキリスト教をお笑いのタネにし、牧師や神父を偏ったイメージで意地悪く描きがちですが、「我が道を往く」は、キリストにふさわしい生き方で多くの人に影響を与え地域のために役立った一神父の姿を見せます。

お近くのレンタルビデオ・ショップで、旧作や名作などの棚を捜してみてください。我が家と同じように、お宅でもきつとお楽しみいただけるものと思います。

(編集部 ジョナサン・ベネディクト)